

「いじめについて考える週間」

大阪市では平成29年度より、毎年5月の大型連休明けの月曜日を「いじめについて考える日」として全市一斉にいじめ問題について考える取り組みをしています。西島小学校でも5月9日に実施しました。毎年「いじめについて考える日」では、児童朝会の講話で高階 杞一さんの「小さな質問」という詩を子どもたちに読み聞かせ、命の大切さを伝える話をします。

さらに、西島小学校では今年度より全学級が教材等を使っていじめ問題について考える「いじめについて考える週間」の取り組みも始めました。今年は5月23日（月）から27日（金）の期間を設定して、実施しました。

「いじめ」とは自分勝手な理由等により言葉や暴力などで、他者の尊厳を著しく踏みにじる、決して許されることのない行為である。そのことを子どもたちとともに考えることを積み重ねていくことが、真に安全で安心できる環境の構築につながると考えます。また、「いじめ」をしてはいけないという指導も大切であるが、それ以上お互いがそれぞれの違いを認め合い、尊重しあうことのできる気持ちをはぐくむことが重要であるとも考えます。

西島小学校では、互いの違いを認め合い尊重できる関係をもとにした、子どもたちにとって今以上に安全であり安心できる場所になるように、これからも努力を続けます。

校長 高岡 繁樹

小さな質問 高階 杞一

すいーっと 空から降りてきて 水辺の草の 葉先に止まると 背筋をのぼし その子は体ごと 神さまにきいた

なぜ ぼくはトンボなの？

神さまは 人間にはきこえない声で そのトンボに言った

ここに今 君が必要だから